

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K01782

研究課題名(和文) 養護教諭の専門職としての成長プロセスの実証的研究と成長促進研修プログラムの開発

研究課題名(英文) Empirical study on the growth process of Yogo teachers as specialized professionals and development of a growth promotion training program

研究代表者

荒川 雅子 (ARAKAWA, Masako)

東京学芸大学・教育学部・講師

研究者番号：60734928

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は養護教諭の専門職としての成長プロセスの生成と、それに基づいた研修プログラムの開発である。この目的に従って、経験20年以上の養護教諭へのインタビュー調査結果をM-GTAの手法を用いて分析し、養護教諭の成長プロセスの概念を生成した。  
また養護教諭養成段階から成長を促すために、養護実習内容の実態調査を行い、養護実習プログラムの開発のための、基礎資料(養護実習 実習項目スタディマップ、実習ハンドブック)を作成した。さらに、養護教諭養成のカリキュラムである「健康相談の理論と演習」について、授業内容を再構成し、その効果について検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

平成28年より、文部科学省は、これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について検討し、校長及び教員としての資質の向上に関する指標の全国的整備を進めてきたが、本研究結果も養護教諭の成長プロセスを明らかにすることで、養護教諭の資質能力の向上に必要な要素を明らかにすることができた。また、資質の向上に関する指標(育成指標)は、各都道府県及び政令指定都市等自治体ごとに作成されているが、それらと合わせ、本研究で開発された研修プログラムを実施することで、養護教諭の養成並びに現職養護教諭の資質能力の向上が期待できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to generate a growth process as a specialized professional for Yogo teachers and develop a training program based on it. In accordance with this purpose, the interview survey results with Yogo teachers with over 20 years of experience were analyzed using the M-GTA method, and the concept of the growth process of Yogo teachers was generated.

Furthermore, to promote growth from the Yogo teacher training stage, an investigation was conducted on the actual content of Yogo practicum, and foundational materials (study map of practicum items and practicum handbook) were created for the development of a Yogo practicum program. Additionally, the curriculum for Yogo teacher training, specifically "Theory and Practice of Health Counseling," was reconstructed, and its effectiveness was examined.

研究分野：教育学

キーワード：養護教諭 成長プロセス 研修プログラム 養護実習

### 1. 研究開始当初の背景

養護教諭が子どもの現代的な健康課題に適切に対応していくためには、常に新たな知識や技能などを修得していく必要があり、そのためには、養護教諭の特性を考慮した養成や研修プログラムが欠かせない。しかし、これまでの養護教諭の養成や研修に関する研究は、力量形成や実践力向上に主眼が置かれており、養護教諭の専門職としての成長のプロセスの視点を考慮した研究は極めて少なかった。そのため、養護教諭の成長プロセスに主眼を置いた研究を行うことで、力量やスキルの獲得だけでなく、長い目で見た成長プロセスに基づいた育成方法の研究につなげることができる。

### 2. 研究の目的

本研究は、質的研究と量的研究の混合研究法デザインにより、次の2点を目的に実施する。すなわち(1)養護教諭の専門職としての成長プロセスの実証的研究および(2)養護教諭の成長プロセスに基づいた研修プログラムの開発である。

(1)では、質的研究に基づき養護教諭の専門職としての成長プロセスの概念モデルを生成する。

(2)では(1)で明らかになった要因を改善・促進するための研修プログラムを作成し、効果を検証する。

### 3. 研究の方法

(1)養護教諭としての経験年数20年以上の養護教諭10名を対象とし、半構造化インタビューを2014年10月～2015年3月にかけて実施した。インタビュー内容は、養護教諭として初任当時から現在に至るまでの過程や、そこでの養護実践の詳細についてである。質的データについて2016年から2017年にかけてM-GTA法で分析した。

(2)養護実習プログラム開発のために、2016年8月から2017年1月にかけて養護実習生(大学3年生)11名と附属学校養護教諭11名に対して質問紙調査を行い、養護実習前後の学生の意識調査並びに養護実習受け入れ状況、養護実習指導内容をカテゴリーごとにまとめ、分析した。また分析結果をもとに「養護実習 実習項目スタディマップ」と実習前の学びのための「実習ハンドブック」をデジタル教材として作成した。実習ハンドブックを使用後、その効果およびそれを配信する教育SNSの効果について、実際に使用した大学3年生12名を対象に2019年7月に質問紙調査およびWEBアンケートを実施した。調査結果は、ユーザーローカル テキストマイニングツール

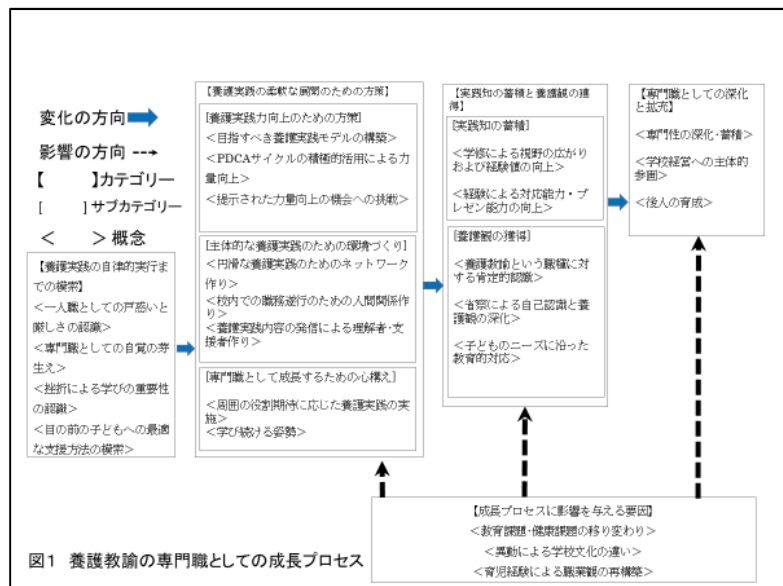
(<https://textmining.userlocal.jp/>)を用いて分析した。

養護教諭養成大学のカリキュラムである「健康相談活動の理論と演習」の授業の2020年度受講者10名の授業毎ごとのレポート及び最終レポートを分析対象とし、計量テキスト分析ツール(KH Coder 3)を用いて分析した。

### 4. 研究成果

(1)23の概念および5つのカテゴリーを生成した(図1)。養護教諭は、まず初心者として【養護実践の自律的実行までの模索】を経験して、一人前の段階に至り、その後【養護実践の柔軟な展開のための方策】をとることで、【実践知の蓄積と養護観の獲得】ができる中堅者の段階に至り、最終的には熟達者として【専門職としての深化と拡充】の段階を経て成長していた。また、

【養護実践の自律的実行までの模索】以降の各段階で、【成長のプロセスに影響を与える要因】が成長のプロセスに影響を及ぼしていた。また、成長のプロセスに内在する、成長を促し、成長の停滞を乗り越えるポイントとして、<提示された力量向上の機会への挑戦>、<周囲の役割期待に応じた養護実践の実施>、<省察による自己認識と養護観の深化>の概念が挙げられた。



(2) 養護実習生への意識調査の結果、実習前は、不安や自信のなさといったネガティブな思いが強く表れていたが、実習後は、大変さを実感しつつも充実感や達成感を感じ、さらに翌年度に行く養護実習に向けて知識や技能を習得するだけでなく、コミュニケーション能力なども磨く必要性を感じていた。また、実習前は、主に救急処置や保健指導といった、いわゆる養護教諭の執務内容の習得に対する期待が大きかったが、実習後は子供の見方や対応の仕方、教員そのものについての理解や、学校組織や教員という立場を学ぶ機会であったと認識していることが明らかになった。養護実習指導内容は、表1の分布のように、一週目から三週目までに徐々に、学校での活動に参画していく内容となっており、段階的に実習プログラムが組み立てられていることが明らかになった。またこの分布を氏がかかし、「養護実習実習項目スタディマップ」を作成した(図2)。このスタディマップを実習前に学生に提示することで、により、学生が実習の全体の流れを把握し、先を見据えた活動を行うことができるようになった。

表1 養護実習指導内容

	日	A 講話		B 保健室(経営)		C 保健教育		D 学級(活動)		E 授業観察		F その他		時間合計	
		予定	実際	予定	実際	予定	実際	予定	実際	予定	実際	予定	実際	予定	実際
1週目	1	1	2.2	1.6	1.8	0.2	0.2	1.1	1.3	1.8	2.2	0.2	0.4	5.9	8.1
	2	1.4	1.4	2.4	2.4	0.6	0.8	0.9	0.9	1.8	1.6	0.6	1	7.7	8.1
	3	0.6	0.6	2.0	2.2	0.6	0.8	1.1	0.9	3	3.2	0.6	1	7.9	8.7
	4	0.8	0.8	2.1	2	0.6	0.8	1.2	0.9	1.6	2.2	1	1.6	7.3	8.3
	5	0.4	0.5	3	3	0.5	0.6	1.4	1.2	1.4	1.8	0.6	1.2	7.3	8.3
2週目	6	0	0	2.4	2.9	1.4	1.5	1.1	1.1	1.2	1.2	1.4	1.8	7.5	8.5
	7	0	0	2.9	3.6	1	1.4	1	0.7	0.6	0.4	2.4	2.4	7.9	8.5
	8	0.4	0.4	1.44	1.24	1.3	1.5	1.16	0.96	1.8	2.4	1.2	1.8	7.3	8.3
	9	0	0	3.2	3.9	0.5	1.4	1.2	1	0.8	0.4	1.8	1.8	7.5	8.5
	10	0	0	1.8	3.2	1.4	0.8	0.8	0.2	0.2	0.4	1.5	1.1	5.7	5.7
3週目	11	0	0	3.8	4.8	0.7	0.5	1	0.4	0	0	0.6	0	6.1	5.7
	12	0	0	4.8	5.2	0.4	0	0.5	0.5	0.2	0	2	2	7.9	7.7
	13	0	0	4.8	6.2	0	0.4	0.5	0.5	1.6	1	1.2	0.6	8.1	8.7
	14	0	0.2	3.4	3.5	0.8	1.8	1.9	1	0.4	0.2	1.2	1.4	7.7	8.1
	15	0.2	0.2	1.2	1.2	0.2	0	1	1.2	0	0	2.2	2.6	4.8	5.2
	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17	0	0	0.2	0.4	0.8	1	0.4	0.2	0	0	0.2	0.2	1.6	1.8
1以上															
2以上															

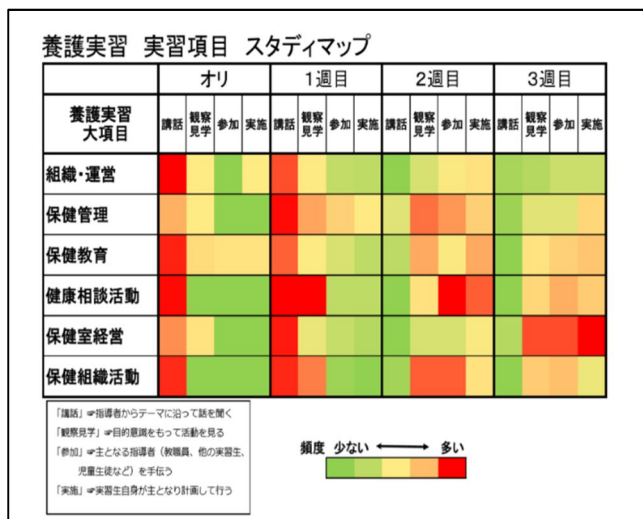


図2 養護実習 実習項目スタディマップ



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 荒川雅子	4. 巻 73
2. 論文標題 「健康相談活動の理論と方法」の授業の検証 計量テキスト分析を用いて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系 第73集	6. 最初と最後の頁 327-338
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 荒川 雅子・佐藤 牧子・田岡 朋子・丸田 文子・倉澤 順子・遠藤 真紀子・中谷 千恵子・塚越 潤・新川 夕貴・武井 佑真・大関 智子・奥山 ゆりあ	4. 巻 第71集
2. 論文標題 大学と附属学校の連携による養護実習分析並びにICT教育コンテンツの作成と検証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系 第71集	6. 最初と最後の頁 173-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中井 里美、竹鼻ゆかり	4. 巻 Vol.14
2. 論文標題 小学校養護教諭の子供観に基づいた救急処置の対応についての質的分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本健康相談活動学会誌	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤千景、竹鼻ゆかり、朝倉隆司、荒川雅子
2. 発表標題 貧困状態にある子供に対する多職種協働による取り組みの成果とそのプロセス ポジティブ・デビエンスに着目した成功要因の抽出
3. 学会等名 一般社団法人日本学校保健学会第66回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田岡朋子、佐藤牧子、塚越潤、武井祐真、新川夕貴、荒川雅子
2. 発表標題 大学と附属学校の連携による体系的な養護実習の分析・検討1
3. 学会等名 一般社団法人日本学校保健学会第66回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大関智子、荒川雅子、遠藤真紀子、倉澤順子、中谷千恵子、角田桜
2. 発表標題 大学と附属学校の連携による体系的な養護実習の分析・検討2
3. 学会等名 一般社団法人日本学校保健学会第66回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒川雅子、朝倉隆司、竹鼻ゆかり
2. 発表標題 養護教諭養の成長プロセス～養成段階における姿～
3. 学会等名 日本健康相談活動学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 西村徳行、柄本健太郎、他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書出版株式会社	5. 総ページ数 223
3. 書名 2030年の学校教育 - 新しい資質・能力を育成する授業モデル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

芸術・スポーツ科学系 教員紹介  
<http://univinfo.u-gakugei.ac.jp/u-gakugei/hp/arakawam1.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	朝倉 隆司  (ASAKURA Takashi)  (00183731)	東京学芸大学・教育学部・名誉教授   (12604)	
研究分担者	竹鼻 ゆかり  (TAKEHANA Yukari)  (30296545)	東京学芸大学・教育学部・教授   (12604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------